

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 01 府立高校校長らと意見交換会 | 05 加盟校出身学生・卒業生の紹介 |
| 02 リレーエッセイ | 06 加盟校の取組紹介 |
| 03 交流事業の紹介 | 07 大教大トピックス／編集後記 |

府立高校教職コンソーシアム校長らと 意見交換

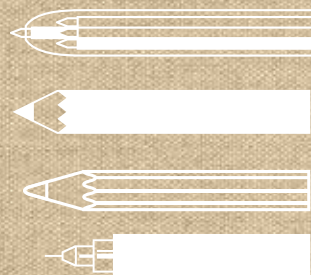
大阪府立高校42校が加盟する「府立高校教職コンソーシアム」と大阪教育大学との意見交換会を、天王寺キャンパスにて令和2年1月10日に開催しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



向き合うこと

大阪府立花園高等学校 中須賀 久尚

私が、教職を志している高校生のお伝えできるのは、「先生になりたいと全く思わなかった私でさえ、振り返ると、私には天職だったのかも…」と思えることです。

それは、「学校の先生」というのがどんな仕事かわかっていなかったことと、「自分自身」が本当は何をしたかったのかわかっていなかったからだと思います。

教諭として初めて赴任した高校は、自宅から離れた土地勘のない場所にありました。当時は1クラス48人定員で各学年12クラス、体育館で全校集会となると、フロアが生徒でいっぱいになりました。

新規採用の教諭は私を含めて4人、私は生徒指導部で常駐8人のメンバーの一員です。

入学式が終わって1週間も経たなかった頃、「〇〇中学は天井に穴が開いていたなあ」と、数人の生徒たちが、教室前の廊下の天井をほうきの柄でボコボコにし、置いていた消化器を廊下に撒き散らしました。

校内での喫煙は毎日のようにありました。「メンチを切った」と急に殴り合いが始まることもありました。

どんな時も先生方の動きはとても速く、関係する生徒と徹底的に向き合い、「いつ、どこで、だれと、何を、どうした」と、そして、「なぜしたか」についてとことん話を聴きました。白を切ったり、食ってかかったりする生徒もいましたが、先生方のチームワークはばっちりで、いろいろな先生が話をするうちに素直になり、「先生ごめんなさい」と言って、反省文を書き出したものです。

メインの課題は原稿用紙10枚の反省文。特別指導で家庭訪問に行き、その進み具合を見ながら、いろいろな話をします。反省文は、先生に「読んでもらう」ためではなく、自分について内省するために書き記されたものでした。やんちゃばかりしているのに、ばあちゃんには、とても優しい生徒もいました。家に入り、家族とも話をして、生徒の内面に初めて気づいたこともありました。どんなに悪い事をしても、そこには必ず理由がありました。すべての生徒には、必ず何かしらの課題があるものです。大切なのは、「先生が一人ひとりの生徒に対して気づこうとしているか」、ということです。

初めてクラス担任をした時は、今でもよく覚えています。初対面の生徒の顔と名前を全員覚えてやろうと、入学志願書の顔写真を必死で覚えたこと。毎日、夜中に学級新聞を書き続けたこと。文化祭では、7mの大きなウルトラマンを夏休み中せっせと皆で作ったこと。日曜日に男子を集めてソフトボールのダブルヘッダー。翌朝の新聞に「〇〇くん大活躍」の大見出し。勉強が苦手でもスポーツが得意な生徒たちの、はにかむ笑顔。私もちゃっかり猛打賞。

辛いこともたくさんありました。自分の都合を優先し、生徒に少しでも不誠実な態度で接してしまうと、生徒は簡単に見破ります。そしてそっぽを向きます。先生が、とことん生徒と向き合うとき、「生徒の人生と一緒に背負う」という覚悟を持つ場合があることを知りました。

私は高校生のとき、「皆が幸せを感じて生きることができるよう仕事がしたい」と思っていました。具体的にそれが何の職業かわかりませんでしたが、生徒と一緒に過ごしながら、「幸せに生きるとはどんなことか」を考え続けられてきたことを思うと、いい仕事に就けたものだと思っています。

もう一つ、皆さんに伝えたいことがあります。それは、先生になったら、どんな学校でも授業(教科指導)を第一にして欲しいことです。ある時、「あなたはトンボを追いかけたことがありますか」など自然体験に関するアンケートを取ったことがありました。すると、授業の終わりに、やんちゃで勉強の苦手な生徒が満身の笑みで走り寄ってきて、「先生、今日の『テスト』は全問できました!」と大声で言ったのを思い出します。

その生徒には、大きなマルと、100点を書いて「凄いなあ。偉いね!」と返しました。これがどういうことか、先生としての責任は大きいと思っています。



中須賀 久尚 なかすが ひさたか
大阪府立花園高等学校校長



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

教師をめざす高校生対象特別プログラム 「教師にまっすぐ」

教師をめざす高校生が、その志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」が7月26日（日）にスタートしました。これは大阪府立高校42校で構成する「府立高校教職コンソーシアム」加盟校の1、2年生を対象に実施するもので5年目となる取組です。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大もあり、開催自体も危ぶまれましたが、状況に応じてオンライン Web 会議システムを活用し開催しました。受講生約200人は、12月までの全5回にわたり、さまざまなプログラムに挑戦します。

第1回は、Web 会議システム（Zoom）を活用してオンラインで実施しました。初めに、和田良彦副学長が、本プログラムの概要について説明を行い、「コロナ禍で対面での開催は制限されていますが、ピンチをチャンスに、新たな学び方とともに作り上げましょう」とのメッセージをおくりました。

元府立高校長の川端康之入試課特別参与による講義「先生になるには」では、教員養成大学で学ぶことの意味や、高校時代にしておいてほしいことについて説明しました。質疑応答はチャットで行いました。川端特別

参与は、「時間内に答えきれないほどのたくさんの質問があり、高校生たちの熱気がオンライン越しに伝わってきました」と参加した高校生たちの様子について振り返りました。

第2回は Web オープンキャンパスに参加し、専攻別説明会や模擬授業等を受講しました。

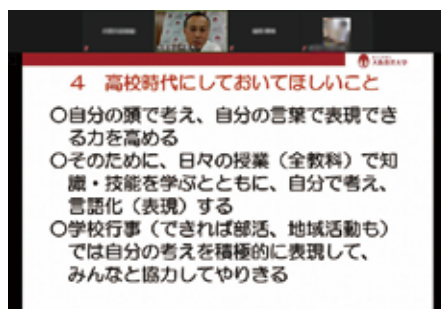
第3回は、課題研究「教育を考える」で、受講生たちは5つの講座に分かれて「情報収集」「分析・整理」「まとめ・表現」を経て結論に導くというグループワークを行いました。

「運動中の体の反応を調べよう」のグループでは、運動・スポーツに関係する「酸素を摂取する能力」について実験室で測定し、その結果を見てスポーツパフォーマンスについて考えました。「プログラミング教育について考えてみよう」のグループでは、実際に小学校で試行が始まっているプログラミングアプリケーションを活用してプログラミング思考の育成に取り組みました。

今回の研究から得た新たな学びと探求心をもとに、引き続き受講生たちは小論文の作成に挑戦します。



Web会議システム
「Zoom」で開会
のあいさつをする
和田副学長



講義を行う
川端特別参与



体育の講座で「最大
酸素摂取量」
測定の映像



プログラミングの講座で記念写真



交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

「教師の学び舎（第11クール）」特別講座 ～クラウドサービスを利用したオンライン授業のデザイン～

「教師の学び舎（第11クール）」特別講座を7月17日（金）、本学理数情報教育系（情報基盤センター）の尾崎拓郎講師が講師となりWeb会議システム（Zoom）で開講し、府立学校教員が受講しました。「教師の学び舎」は、「府立高校教職コンソーシアム」の加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、授業力向上や生徒指導、ICT教育など様々なテーマの講義を提供しています。

今回の講座を担当する尾崎講師は、大学での学部生へのノートパソコン必携に関する取り組みや学習管理システムの活用を推進しており、本学におけるICT環境を活用したオンライン授業の実施について、大学教員向けの研修の講師を数多く実施した経験を持ちます。今回は「学校のお悩み解決オンラインワークショップ～クラウドサービスを利用したオンライン授業のデザイン～」と題し、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に増えているオンライン授業の定義や授業パターン、コンテンツの配信方法等を説明しました。

尾崎講師は、オンライン授業の定義について、学校の「オンラインコミュニティ」としての場所を形成するもの

で、そこにアクセスすれば先生や友人と交流できることを解説。さらに、「対面・リアルタイム（同期型）」「遠隔・オンデマンド（非同期型）」授業形態の特徴や授業例、ツールの活用例等を紹介しました。リアルタイムの授業を必ずしも優先するのではなく、非同期のコミュニケーションを意識することや、授業資料では動画（映像＋音声）に固執するのではなく、（資料＋音声）で事足りるのか検討してデータ量の削減を考慮する必要があることを説明しました。

参加者からは「オンライン授業は手段であって、何の力を身に付けさせるために教育活動を行うのかという根本命題を忘れることなく、今後も授業改善を続けます」「リアルタイムの授業スタイルを必須と考える教師も多いが、本当にそれが必要なのかを考えることも大事だと思った」「本日学んだことを、本校でオンライン授業を進めていく糧にさせていただきます」との感想が寄せられました。



オンラインで説明を行う尾崎拓郎講師



「Zoom」での説明や資料の提供

加盟校出身学生・卒業生の紹介



だて あすさ
伊達 梓さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻 国語教育コース 4 回生
三島高等学校 2016 年度卒

一高校時代の思い出は？

三年間の大部分を部活動に捧げました。私の所属していた吹奏楽部は、多い時には三学年で約 90 名の部員がいました。そこで部長として、責任ある役職を経験させていただき、勉強との両立は簡単なものではありませんでしたがとても充実した日々を過ごしていました。

一小学校教諭をめざしたきっかけは？

小学校 4 年生の時の先生は、初めて私たち子どものことを子ども扱いせず、一人の人間として対等に接してくれる先生でした。大好きだった先生が、私が中学生の時に亡くなってしまい、その時「先生の分まで教師として生きたい」と強く思ったことがめざしたきっかけです。

一小中教育専攻のいいところ

同じ夢を志す仲間と、少人数でかつ内容の濃い講義を受講できる、というのが一番の魅力だと思います。また、自分の専門（国語）だけでなく、他教科の学生と一緒に受ける講義が多く、今まで思いもしなかったような考えや新たな発見が多くあります。

一クラブ・サークルは何をやっていますか？

＜大学生活で頑張っていること、楽しいことは＞

新しいことを始めたいという思いから、体育会女子サッカー部に入部しました。初心者だからこそ、できないことや悔しい思いもたくさんしましたが、一緒に頑張る仲間や、支えてくださるコーチなどのおかげで、今ではサッカーはなくてはならないものになっています。また、部活を頑張ることは大学生活を規律正しいものにしてくれたとも感じています。

一お勧めの勉強法

ゴールや目標を決めずダラダラ勉強することは大学生には不向きだと思います。自分次第で自由に活用できる時間の多い大学生だからこそ、勉強する時間や内容を決めて一点集中で勉強するのをお勧めします。私は、大学の図書館が閉まるまでは集中して勉強し、その他では自由に時間を使うというようにメリハリを持って勉強していました。

一大教大のいいところ

単科大学だからといって、みんながみんな教員をめざす人ばかりなのではなく、公務員、一般企業など、様々な夢を持った人がいます。学生数が他大学に比べて少ないからこそ、自分の学科以外の人と交流する機会も多く、自分の考えや視野が自然と広がります。そんな環境である大阪教育大学は勉強、ボランティア、留学など、新たなことに挑戦するのにとても適していると思います。

一大学生生活を有意義に過ごすには？

大学生活の 4 年間は一見長いようにも感じますが、実際はあっという間です。アルバイトと授業に追われてこなすように日々を過ごすのではなく、「明日は？」、「来月の今頃は？」、「来年には？」のように、少し立ち止まって先のことを考えてみるだけで、大学生活は全く違ったものになると思います。そして、考える中で興味のあること、やってみたいことなどがあれば、積極的に自分から動いてみるのもお勧めします。きっと、友達や先生方、また学生生活をサポートしてくださるスタッフの方々がいろいろな意見や刺激を与えてくれると思います。



きむら さとし
木村 哲士さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻 社会科教育コース 3 回生
豊中高등학교 2017 年度卒

一高校時代の思い出は？

私は中学生の時から憧れで、合唱コンクールの全体合唱の指揮を高校 1 年生の時に経験したことが印象に残っています。校歌とハレルヤを高校 1・2 年生の総勢 240 人で歌うのを間近で指揮をし、全員が自分を見ている光景は圧巻でした。感動と興奮で指揮をしながら、手が震えていたのを今でも昨日のこのように覚えています。失敗してもいいので、やりたい事はどんどん挑戦することが大事だと思います。

一なぜ小中教育専攻社会科教育コースをめざしたのか？

実は高校 3 年生の 10 月まで進路ははっきりしていませんでした。自分には何が向いているのか？何をしたいのか？をずっと自問自答していました。人前に立つ仕事や人と関わる仕事に就きたいと思い、教員をめざしました。しっかりと悩んで、たくさんの方に相談をしたので、自信をもって進路を選ぶことができました。

一小中教育専攻社会科教育コースのいいところ

私の学科では、小学校の教員免許と中高の社会科の教員免許を取得することができます。なので、小学校から高校の先生まで自分の選択肢を広げることができます。またそれぞれの学校に実習に行く機会があり、たくさん経験を積むことができます。周りの学生も教員をめざしており、みんなで切磋琢磨しながら楽しい学生生活を送ることができます。

一クラブ・サークルは何をやっていますか？

私は「大阪教育大学 YOSAKOI ソーランサークル凜嬢」に所属しています。活動内容は分かりやすく言うと、高校の体育祭応援団で行うダンスのパワーアップ

版です。構成、ストーリー、曲、歌詞、振付、衣装、大幕、旗、道具など全て自分たちで考えて作ります。そして、自分たちの手で創り上げた演舞を全国各地のお祭りで披露します。また、北海道から沖縄まで全国に沢山の学生チームがあります。年に数回、交流会があり、友達も全国にできます。このサークルを選んだことで、大学生活がより充実したと確信しています。

一お勧めの勉強法

大学受験の際には、基礎をしっかりと固めることを意識していました。ついつい応用問題や難しい問題にばかり目がいき、解けないと焦ってしまいがちです。しかし、高校 3 年生になってから思いのほか、基礎固めがしっかりとできていないことに気がきました。そこで、「分かっているつもりでいた」基礎を徹底的に復習し、固めたことで徐々に点数も上がり、最終的には応用問題も解けるようになりました。

一大教大のいいところ

私が通っている柏原キャンパスはとにかく自然豊かで空気が澄み渡っています。また、周りに教員をめざす学生が多く、情報共有が沢山のでき、共に勉学に励むことができるのがいいですね。教員をめざす学生が多いことで、初対面でもコミュニケーションがしっかりとれ、授業や学祭で友達が多くできるのもいいところです。

一大学生生活を有意義に過ごすには？

大学生活の 4 年間はあっという間です。そのため私のおすすめは大学生になったらやりたい事を高校生の間にリストアップしておくことです。旅行、読書、映画鑑賞、資格、インターンなど好きなことや将来に向けてのことなどなんでもいいです。そして、大学生になったら一つ一つそれらを実行に移していきます。私も受験生の時に大学生活に胸を膨らませながら、大学生になったらやりたいことをリストアップしていました。なんとなく過ごすのではなく、具体的に自分がしたいことを事前に決めておくことで有意義に過ごすことができます。





加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立槻の木高等学校

本校は、大阪府立島上高等学校と大阪府立高槻南高等学校との再編整備により、旧島上高等学校の敷地に平成15年（2003年）に開校した全日制普通科単位制高校です。「当たり前のことを当たり前」をモットーに、仲間と共に日常の努力を積み重ねることで、5年後10年後の自分を作り上げていける生徒を育成しています。



当たり前のことを当たり前

これが、槻の木高校の「厳しさ」であり、自分の力を社会で発揮するために最も大切なことと考えています。本校生徒が実践している「当たり前」は、(1) きちんとしたあいさつをする、(2) 身だしなみを整える、(3) 時間を守る、(4) 人の話を最後までしっかり聞く、(5) ルールを守る、(6) 学習習慣を身につける、です。新入生は、日々上級生の姿勢から学び、いつの間にか皆が、清々しい槻の木生になっていきます。

単位制って？

本校のカリキュラムは、半期（半年）単位で構成されており、前期・後期で時間割が異なります。前期、後期のそれぞれで単位を認定する充実したカリキュラム、多様な選択科目により、生徒一人ひとりが、それぞれの進路実現に向けた教科・科目を学習できる環境にあります。



学力向上のために～授業・土曜講習・週末課題

学力向上のために本校が最も大切にしているのは、毎日の授業です。1週間の授業数は33コマで、月火水は7時間、木金は6時間授業です。

加えて、「土曜講習」（希望者）を実施し、土曜日の午

前中に、国語、数学、英語の授業の復習を行い、「週末課題」（全クラス共通の宿題）にスムーズに取り組めるようサポートします。「土曜講習」の1年生前期の参加率は約95%。学年が進めば、土曜講習は進学のための講習に発展していきます。

学力向上のために～2年生英語「週テスト」

2年生になると、学習活動をさらに発展させるために、毎週月曜日の1時間目に英語のテスト「週テスト」を実施しています。「大学入学共通テスト」対策のため、昨年度よりリスニングも導入しました。この取組みは、先輩から後輩へ「週テストは力がつく」と引き継がれています。

学力向上のために～3年生「終礼テスト」「平日講習」「早朝学習」「夏期・冬期講習」

3年生では、毎日の英語「終礼テスト」、10月から12月の3か月間・毎日1問、現代文の評論・小説の問題を解く「早朝学習」（希望者・約7割が参加）を実施しています。加えて、社会・理科の各科目の平日講習、夏期講習、冬期講習があります。

学力向上のために～「質問と自習」「一日勉強会」

学習習慣の確立と共に、質問できる環境を整えることは、とても重要なことだと考えています。自習室を整えると共に、職員室前にホワイトボードを置き、常に質問に対応しています。また、「一日勉強会」（希望者）を定期考査前などに開催し、教室を自習室として、多くの生徒が集中して自学自習する機会を提供しています。（午前中は教員が質問に対応。）



槻の木 NEXT STAGE

5年後10年後、自分の素晴らしさを社会で発揮するために、学びの場を学校外にも広げています。大学や企業の訪問、大学生や大学の先生との交流、韓国・タイ・オーストラリア姉妹校等への短期留学・交流を実施することで、社会で、海外で、頑張っている人、輝いている人から学ぶ取組みを進めています。

教師の魅力を発信 Web 特設サイト「教師冥利に 尽きるエッセイ」集を開設

全国の教職等経験者から集まった「教師冥利に尽きるエッセイ」を公開し、教師の魅力を発信する Web 特設サイト「教師冥利に尽きるエッセイ」集を6月24日(水)に開設しました。

これは、令和2年1月に開始した「大阪教育大学クラウドファンディング」の第一弾「教師の魅力向上プロジェクト」の成立により、実現したものです。

今回開設した Web 特設サイトでは、全国の教職経験者の方々から集まったエッセイを公開し、教師の魅力を発信します。現在、エッセイの募集を受け付けるとともに、今後は教師をめざす高校生や大学生等のキャリア教育教材としてエッセイを活用するなど、様々な活用や展開を予定しています。

プロジェクトリーダーの新津勝二理事・事務局長は、「新たな教育をリードする大学として、教員の養成はもとより教育全体に責任を持つことができるよう、引き続き様々な取り組みを進めて教育界全体の底上げにつなげていきたい。今回のプロジェクトはそのひとつの試みです」と語りました。



国立の教員養成大学初の ネーミングライツ施設開設を記念 した式典を開催

国立の教員養成大学初のネーミングライツ施設開設を記念した式典を9月3日(木)に附属図書館本館で開催しました。

ネーミングライツ制度は令和2年4月、本学の財政基盤強化のため導入したものです。附属図書館本館及び天王寺分館のラーニング・コモンズ「まなびのひろば」を対象としたネーミングライツ公募手続きを経て、8月7日に東京書籍株式会社と協定を締結し、同施設は9月1日以降「東京書籍 Edu Studio (エデュスタジオ)」と呼称することになりました。

本学としては記念すべき初のネーミングライツ施設であり、国立の教員養成大学としても初のネーミングライツ事例となります。

栗林澄夫学長は、「東京書籍 Edu Studio 内に設置していただいたデジタル教科書体験コーナーや教科書ライブラリーは、今後、教育現場で子ども達の指導にあたる本学学生の育成に大いに役立つ。ネーミングライツを契機とした連携は、教育現場の高度化に資するものであり、日本社会の将来に貢献できる新たな試みとして期待している」と述べました。



編集後記

4月から学内異動により、本事業に参加させていただくこととなりました。皆さんと対面での交流を楽しみにしていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、本年度の「教師にまっすぐ。」はオンラインの開催となりました。非常に残念であると同時に、これまで実施したことのない方法で実施することのプレッシャーが襲い掛かってきました。

ところが、皆さんの柔軟な対応力のおかげで全くの杞憂で終わりました。こんなところでも新たな学びが育まれているということを実感することが出来ました。12月の修了式では、皆さんと直接お会いしたいと願っています。

追伸 本学では、「教師冥利に尽きるエッセイ」のスピノフ企画で「恩師への手紙」を募集しています。

どなたでも応募できますので、よろしくお願いします！ 検索⇒「恩師への手紙 大教大」

(NY)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

@OsakaKyoikuUniv



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

@osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。